



学校だより

学校教育目標

11月号 (第574号)

令和5年 10月31日
横浜市立すみれが丘小学校

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづけるすみれっ子〉
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

「一生懸命の中にいるのがうれしい」

副校長 阿部 一平

先月の運動会では、子どもたちが本気になって取り組み、生き生きと力を発揮する場面をたくさん見る事ができました。演技や競技中に見せる子どもたちの真剣な表情を見るたびに自然と拍手を送ってくださった方も多くいらっしゃったことと思います。ただ当日にいたるまでには、「演技が心配だから、体育館の練習に行きたくない」と、廊下で見かけるたびにこう呟き、いつも足取りが重い…、そんな子もいました。でも、休み時間の学年練習の場で「いっしょにやろう」という友達の声に誘われて、回を重ねるごとに笑顔を取り戻し、その子も本番では人一倍張り切って演技を披露することができました。6年生のある児童は、綱引きでの自分の勝利はそっちのけで、転んで悔しがっている相手に「大丈夫？」と声をかけていました。子どもたちが互いに声をかけ合い励まし合いながら、精一杯力を発揮している姿を見て、今年も胸が熱くなりました。



▲伝統のソーラン節を披露する5・6年生

さて、今月は4年ぶりに音楽集会が行われることになりました。「2・4年生」「1・6年生」「3・5年生」のペア学年ごとに体育館で日頃の音楽学習の成果を発表します。先日、ある学年の音楽の授業の様子を見にいくと、早速リコーダーや鍵盤ハーモニカの練習に励んでいました。ところが、一人だけ参加をためらっている子がいました。どうも前回の練習に参加できていなかったため勇気がでなかったようでした。なんとか勇気を振り絞って音楽室に入ることはできましたが、鍵盤を前にしても手は動きません。すると、近くの友達がそっと寄り添い、自分の練習の手を止めて、「ここだよ」と楽譜を指さし教え始めました。きっと教えているこの子も、今日やりたかった練習があったらと思うと、とても温かな気持ちになりました。しかし、しばらく練習をした後で、初めて参加したその子がぼそっと言いました。「みんなはたくさんできるのに、ぼくは、まだこのフレーズしかできない…」

すかさず、先生が語りかけます。「今、〇〇さんがとても大切なことを言ってくれました。できないところがあることは恥ずかしいことじゃないんです。できるところが少しでもあればそれで十分です。しかも〇〇さんができているところはこの曲でとっても大切な所です。そこだけ かじりついてでもやればいい。必ずだれかが助けてくれます。それが合奏です。だから今こうしてみんなで演奏をしているんですよ。」

話を聞き終えると、その子はもちろん、クラスみんなの表情がぱっと明るくなり、早くもう一度演奏したいという顔に変わっていきました。今、このクラスはみんなで必死になって練習し、互いに音を補い合いながら練習に励んでいます。

以前「一生懸命の中にいるのがうれしい」とっていた子どもがいました。一つの目標に向かって懸命に取り組む子どもたちは、どの子も輝いています。そして、その過程で困難なことやうまくいかないことがあっても、友達や周りの大人の温かな励ましと支えがあれば、しっかりと乗り越え、子どもたちはその度に強くたくましく成長していきます。

子どもたちが一生懸命になるための場を創っていくことも学校の大きな役割の一つです。秋の行事が、また一つ子どもたちの成長につながるきっかけになるように、私たち大人もまた、一生懸命声をかけ、励まし続けたいと思います。